



Well-being PRJ

2024 年度

東京歯科大学リカレント教育セミナー

(東京歯科大学ウェルビーイングプロジェクト主催 東京歯科大学同窓会共催)

プログラム・抄録集

日時：2025年2月9日（日）

会場：東京歯科大学水道橋校舎新館 血脇記念ホール

2025年2月9日（日）

2024年度 東京歯科大学リカレント教育セミナー

（東京歯科大学ウェルビーイングプロジェクト主催 東京歯科大学同窓会共催）

会場：東京歯科大学水道橋校舎新館 血脇記念ホール

口腔機能評価と口腔機能管理の実践のために

9：30～13：00

総合司会：東京歯科大学 副学長 片倉 朗

9：30～ 開会挨拶

東京歯科大学 学長 一戸 達也

東京歯科大学同窓会 会長 富山 雅史

座長：東京歯科大学小児歯科学講座 新谷 誠康

東京歯科大学老年歯科補綴学講座 上田 貴之

9：40～ イン트로ダクション：

全ライフステージでの口腔機能管理の重要性

演者：東京歯科大学老年歯科補綴学講座 教授 上田 貴之

9：50～ キーノートレクチャー1

高齢期の口腔機能の重要性

演者：大阪大学大学院歯学研究科

有床義歯補綴学・高齢者歯科学講座 教授

東京歯科大学老年歯科補綴学講座 非常勤講師 池邊 一典

10：30～ 筋代謝の観点から考える咀嚼筋の老化に関する基礎研究

演者：東京歯科大学口腔病態外科学講座 助教 星野 照秀

壮年期・中年期では口腔機能をどう評価して何を管理すべきか

演者：東京歯科大学老年歯科補綴学講座 講師 太田 緑

<休憩>

11：30～ キーノートレクチャー2

高齢者のフレイル予防を基軸とした栄養・食生活と口腔の関わり

演者：東京都健康長寿医療センター研究所

自立促進と精神保健研究チーム 研究員（管理栄養士）

本川 佳子

12：10～ 小児の口腔機能管理 ―口腔機能発達不全症の対応―

演者：千葉歯科医院 院長

東京歯科大学小児歯科学講座 非常勤講師 浜野 美幸

健康な成長を築くための発達期の食事と摂食嚥下

演者：東京歯科大学口腔健康科学講座

摂食嚥下リハビリテーション研究室 准教授 大久保真衣

閉会挨拶

東京歯科大学 副学長 山本 仁

全ライフステージでの口腔機能管理の重要性

東京歯科大学老年歯科補綴学講座 教授 上田 貴之

2018年4月に口腔機能発達不全症と口腔機能低下症に対する検査料と管理料が公的医療保険に収載された。私は、この二つの病名が同時に公的医療保険の対象となったことは歯科医学的に重要なだけでなく、非常にメッセージ性の高い施策であると考えられる。かかりつけ歯科医には、全ライフステージでの口腔機能管理を行うことが求められているということだろう。

口腔機能を支えるということは、食べることやコミュニケーションなどを支えることにほかならない。一見対局にあるように見える小児と高齢者に対する口腔機能管理には、共通点も多いだろう。今回のリカレント教育セミナーが、全ライフステージにおける口腔機能管理の必要性と対応についての理解が深まる一助となれば幸いである。

【プロフィール】



【略 歴】

1999年 東京歯科大学卒業
2003年 東京歯科大学大学院歯学研究科修了
2003年 東京歯科大学・助手

2007年 東京歯科大学・講師
2007年 長期海外出張（スイス連邦・ベルン大学
歯学部補綴科客員教授）
2009年 東京歯科大学復職
2010年 東京歯科大学・准教授
2016年 文部科学省高等教育局医学教育課技術参
与（2018年まで）
2019年 東京歯科大学教授

【主な活動】

日本老年歯科医学会 常任理事・指導医
日本補綴歯科学会 理事・指導医・広報委員長

高齢期の口腔機能の重要性

大阪大学大学院歯学研究科有床義歯補綴学・高齢者歯科学講座 教授

東京歯科大学老年歯科補綴学講座 非常勤講師 池邊 一典

我々は2010年度より、大阪大学の有志と健康長寿の要因を探索する大規模疫学研究を進めている。本研究は、老年心理学・社会学（人間科学研究科）、老年内科学・看護学（医学系研究科）と、我々歯科補綴学・歯周病学（歯学研究科）との文理融合型学際的研究である。

本研究からは以下のことが示された。

1. 口腔機能（咬合力、咀嚼能力、舌圧、唾液分泌、口腔感覚、味覚）は、高年齢群の方が低く（横断研究）、加齢により低下した（縦断研究）。
2. 咬合力の低い者は、交絡因子を調整したうえでも、野菜類、たんぱく質の摂取が少なく、その結果、抗酸化ビタミンや食物繊維の摂取が少なかった。
3. 長期観察研究の結果、咬合力の低い者は、低栄養、歩行速度や認知機能が低下しやすかった。

今回は、長期縦断研究で見えてきた、高齢期の口腔機能の重要性をお話しさせていただく。

【プロフィール】



【略歴】

1987年 大阪大学歯学部卒業
1991年 大阪大学大学院歯学研究科修了
1998年 大阪大学歯学部附属病院 講師

1999年 文部省在外研究員として University of Iowa (USA) にて研究に従事

2015年 大阪大学大学院歯学研究科 准教授

2015年 IADR Distinguished Scientist Award for Geriatric Oral Research

2018年 大阪大学大学院歯学研究科 教授

現在に至る

日本老年歯科医学会 専門医、指導医

日本補綴歯科学会 専門医、指導医

筋代謝の観点から考える咀嚼筋の老化に関する基礎研究

東京歯科大学口腔病態外科学講座 助教 星野 照秀

「オーラル・フレイル」は口腔外科領域でも口腔機能の再建・治療において重要な観点である。近年では、サルコペニアやフレイルと口腔機能の関連が示唆されており、フレイル予防において口腔機能を維持・管理する必要性が広く認知されてきた。しかし、口腔周囲筋の老化に対しての科学的な検証は少ない。我々は、そこに注目して老化に伴った咀嚼筋の形態的、組織学的な解析に加えて、筋代謝の観点から老化に伴う変化を報告してきた。今日は私たちの講座で行ってきた咀嚼筋を中心とした骨格筋の老化に関する基礎研究の概要と今後の研究に関して紹介する。

【プロフィール】



【略歴】

2011年 東京歯科大学歯学部卒業
2017年 東京歯科大学大学院歯学研究科（口腔病態外科学専攻）修了
2017年 東京歯科大学口腔病態外科学講座 レジデント

2019年 東京歯科大学口腔病態外科学講座助教
現在に至る

【資格】

日本口腔外科学会 専門医
日本抗加齢医学会 専門医
日本有病者歯科医療学会 専門医
日本口腔科学会 認定医・指導医
日本口腔内科学会 専門医・指導医
日本老年歯科医学会 認定医
日本口腔診断学会 認定医

壮年期・中年期では口腔機能をどう評価して 何を管理すべきか

東京歯科大学老年歯科補綴学講座 講師 太田 緑

池邊らは、地域在住高齢者の口腔機能低下症の割合は4割程度と報告している。口腔機能が低下した高齢者に対しては、口腔機能管理により維持・向上を図っている。一方で、我々の調査では地域歯科診療所の50代の患者における口腔機能低下症の割合が5割程度であった。口腔機能の低下は、高齢期に突然起こるわけではなく、壮年期から徐々に低下が始まっているものと思われる。したがって、壮年期において低下が始まる前から定期的に口腔機能検査を行うことで、低下の兆候をより早期に発見することができる。また、口腔機能管理も、歯周病の管理などと一体的に実施されることが求められる。本講演では壮年期・中年期における口腔機能評価と管理の考え方について紹介したい。

【プロフィール】



- 2015年 東京歯科大学大学院歯学研究科歯学専攻 修了
- 2015年 東京歯科大学老年歯科補綴学講座 助教
- 2019年 ジュネーブ大学高齢者歯科学・有床義歯補綴学講座 長期海外出張
- 2022年 東京歯科大学老年歯科補綴学講座 講師

【略歴】

- 2010年 東京歯科大学卒業
- 2010年 東京歯科大学千葉病院 臨床研修歯科医

高齢者のフレイル予防を基軸とした 栄養・食生活と口腔の関わり

東京都健康長寿医療センター研究所

自立促進と精神保健研究チーム 研究員（管理栄養士） 本川 佳子

地域において適切な医療および介護サービスの提供が求められるなか、低栄養、フレイル対策が喫緊の課題であり、栄養・食事については、しっかり食べる、不足させないという点が重視されるようになってきた。特にたんぱく質摂取や食品摂取の多様性については様々な研究が進められている。その栄養・食事を支えるのは、口腔機能の維持であり、我々の研究においても咀嚼機能と栄養素等摂取量が関連することが明らかとなり、歯科と栄養領域の連携が強く求められている。本講演では歯科と栄養の連携の視点も含めて、フレイル対策を基軸に栄養管理について基礎から最近の研究についてお示しし、地域における歯科と栄養連携がシームレスなものとなるよう皆様と議論を深めていきたい。

【プロフィール】



【略歴】

2006年 管理栄養士取得
2011年 東京農業大学大学院博士課程（食品栄養学）修了博士号取得

【職歴】

大学院修了後、急性期病院勤務を経て在宅栄養管理を行う。
2015年より東京都健康長寿医療センター研究所現在に至る

【その他】

2020年～ 東京都栄養会理事（栄養ケア・ステーション部長）
2024年～ 日本栄養士会理事

【主な研究テーマ】

・フレイル予防を基軸とした栄養ケア
・口腔と栄養の連携 等

小児の口腔機能管理 —口腔機能発達不全症の対応—

千葉歯科医院 院長

東京歯科大学小児歯科学講座 非常勤講師 浜野 美幸

子どもを取り巻く環境の変化により、口腔機能や食に関する問題が顕在化している。口唇閉鎖不全は約3割の小児にみられ、コロナ禍を経て悪化が報告されている。小児期に口腔機能を育成することは、高齢期の口腔機能低下を防止するために重要である。さらに、小児期は顎・顔面の筋骨格性の成長期であるので、口腔機能の正常な発達は、よい歯列咬合形態に導くという意味で大きな意義がある。したがって口腔機能発達不全を早期に発見し、生活環境を適正化し、必要に応じて運動機能訓練を行うことが肝要であり、生活に寄り添いながら継続して小児の口腔機能管理を行うことが求められる。

【プロフィール】



【現職】

日本歯科専門医機構認定 小児歯科専門医指導医
東京歯科大学小児歯科学講座 非常勤講師
昭和大学歯学部 客員講師
公益社団法人日本小児歯科学会 副理事長

【略歴】

1986年 東京歯科大学卒業
1990年 東京歯科大学大学院（小児歯科）修了
病院勤務を経て
2003年 千葉歯科医院 院長
現在に至る

健康な成長を築くための発達期の食事と摂食嚥下

東京歯科大学口腔健康科学講座

摂食嚥下リハビリテーション研究室 准教授 大久保真衣

発達期の摂食嚥下機能は、食事や口腔機能の基盤となる重要な時期と考えます。この時期には、口腔・咽頭部の形態がダイナミックに成長し、機能も変化します。しかし日常生活や癖などから、口腔機能発達不全が生じることもあります。さらに本人やその家族はそのような状態に気づいていない場合も少なくありません。このような場合、適切な口腔機能の評価や支援が必要となります。本講演では、定型発達における摂食嚥下機能がどのように形成されるのか、成長ステージごとの変化や課題についてご説明し、歯科医療としての果たすべき役割を考察し、子どもたちの健やかな成長を支える一案になると考えます。

【プロフィール】



【略歴】

- 1999年 東京歯科大学卒業
- 2003年 昭和大学大学院歯学研究科（口腔衛生学専攻）修了
- 2005年 東京歯科大学歯科放射線学講座助手
- 2017年 東京歯科大学口腔健康科学講座摂食嚥下リハビリテーション研究室准教授
- 2023年 東京歯科大学千葉歯科医療センター病院教授